

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	障がい福祉課	
施策	5	障がい者福祉の充実	評価 責任者	野中 隆	内線 2510
小施策	5-1	障がい者への理解と交流の促進	評価 シート 作成者	熊谷 聡美	内線 2511

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
障がいのある人もない人も地域の中で自立した社会生活を送ることができるような条件を整え、共に生きる社会の実現が求められている。		市民一人ひとりが障がいや障がい者に対して十分な理解をし、配慮していくための啓発広報を行うなど、障がい者が地域の一員として安心して生活でき、誰もが暮らしやすいまちづくりを進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民		理解と交流が図られている

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 42.0		H31目標値 51.0
			H36目標値 60.0		
			<p>・まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合は42.1%であり、当初値を超えた。</p> <p>・2016希望郷いわて大会を経て、東京2020パラリンピックを2年後に控え、総じて障がい者へ向けられる目は多くなっていると考えられる。</p>		
<p>・平成29年度に障がい者に対して実施したアンケートで、日中は自宅で過ごす人が49%を占めた。外出頻度では、ほぼ毎日47%であるが、週に2、3回が26%、週1回が9%、月2回が8%、ほとんど外出しない及び全くしない人は10%であり、このことから、市民との交流の機会がない人がいることが考えられる。</p>			<p>・障がい者の外出が少ない一因として、通所等の障害福祉サービスの未利用及び外出支援サービスの未利用が考えられ、周知が不足している可能性がある。</p> <p>・障害福祉サービスの利用や生活面の課題の相談について、相談支援事業所と契約している障がい者は83.5%、障がい児は37.4%であり、その他の人は相談支援専門員の不足により契約できない状況であることから、地域生活の様々な可能性が限定されているおそれがある。</p>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>		
指標② 障がい者アンケート調査「障害福祉に関心がある」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 63.5		H31目標値 72.0
			H36目標値 80.0		
			<p>・平成29年11月「障害を理由とする差別の解消に向けた地域フォーラム岩手」を内閣府、岩手県との共催により開催し、123名の来場者があった。</p> <p>・フォーラムの開催について、周知やパネリストについて内閣府や県の協力を得て、取組の拡大及び充実した内容とすることができた。</p>		
<p>・「障害福祉に関心がある」と回答した市民は59.7%であり、前回調査より3.8ポイント下がっている。</p> <p>・障がい者からは、差別や合理的配慮の不足について、一定数の相談がある。</p>			<p>・障がい者に関係した事件も多くあることから良い印象を持たない人もいる可能性がある一方、全く無関心な人も一定数いる可能性がある。</p> <p>・障がいや障がい者への理解不足により、差別が生じると考えられる。</p>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>		

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>☆1 平成31年度は障がい者福祉計画の中間見直しに伴い、平成30年度以降に障がい者各団体と意見交換会を行う際に、障がい者への理解と交流についての御意見も伺う。</p> <p>☆2 重度身体障がい者移動支援事業の充実について、委託先の盛岡市社会福祉協議会と検討する。</p>	
<p>★ 障がいや障がい者に対し市民の理解が得られるよう、引き続き障害者差別解消法について周知を図るほか、障がい者スポーツ大会、障がい者芸術祭等により市民との交流を進める。</p>	